

発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113

〒496-0036

代表TEL:(0567)26-3921

FAX:(0567)26-3922

ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>



屋根より高いこいのぼり～ / S・O・S



3月のある日、外で遊んでいる子ども達をじーっと眺めながらポツリと言った。『子供の日はくるねえ。思い切って屋根より高いこいのぼりを買うかなあ～』その翌日、社長は人形店に見積もりを取り始めた。

4月吉日、全体行事としてこいのぼり上げ式を行った。風のとても強い日だったが、2階ベランダ・庭・部屋の窓...そこにいる全ての大人と子どもが参加し、こいのぼりを上げ、ちまき・柏餅を食べて祝った。“病気に負けないよう、日々元気に過ごしてほしい”という願いを込められ青空を一生懸命およくこいのぼり達。G・W中に訪れる入居者の家族さんも「見事だねえ～」と見惚れていました<R・W>



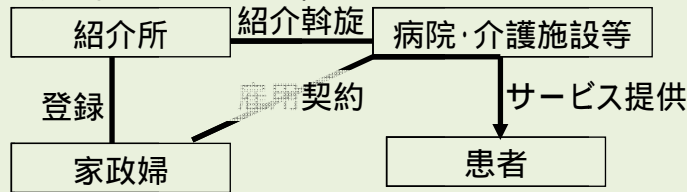
関係性 / ナイス・ケア

足腰に力は入らないけれど、自分なりに工夫して生活している利用者さんがいる。以前から訪問する度、室内のアンモニア臭が気になっていた。どうやらズボンが汚れている様子。何度も「ズボンを替えましょうか。手伝いますよ」と声を掛けるが、いつも「汚れとらん」と断られる。週に1度の外出の日、せっかくだから着替えて欲しいと思った。問答の末、「あのねえ、おしっこのにおいがするんだわね」と伝えると、即座に「臭いと思うなら、ここに来なきゃいいだろうが!!!」と言葉が返ってきた。その後も、色々話した。最後には「こんなことをしてくれるのはあんなだけだわ」とズボンを着替えてくれたが...。「においがする」と言ったことを何度も思い返す。一時の感情で言ったのではないが、別の言い方があったかも知れない。でも、こんな話し方ができる関係があるから言えた言葉なのも確かなのだ。それでも、別の言い方があったかもしれない...。今も考え続けている。<M・N>



家政婦の有効な活用について ～病院・介護施設等での活用～ / つしま紹介所

病院・介護施設等(以下、施設雇用という)により、家政婦を看護・介護補助者として病院や介護施設等の職員(常用・臨時・短期)としてご活用いただけます。雇用した家政婦に対する指揮命令系統は病院や介護施設等の他の職員と同様になります。<Y・I>



労働基準法・就業規則の適用
労災(労働者災害補償)の適用
雇用保険の適用
健康保険、厚生年金保険の適用
一定の雇用条件に満たない勤務者を除く

5月の利用状況

ナイス・デイ(定員 10名)						
日	月	火	水	木	金	土
4	6	6	9	8	7	6
(数字は定期のご利用者数)						
ナイス・ホーム(定員 17名)						
...登録者 14名						
ナイス・ケア(定員なし)						
...新規サービス大歓迎						
愛宕の家(定員 10名)						
...入居者 9名						

心機一転 / ナイス・デイ

4月1日、新しい場所でのデイサービスが始まった。ここは普通の家庭となんら変わりのない家庭的な場所である。最近では民家を使用してデイサービスを行っている事業所も少なくない。場所が変わっても利用者さんはもちろん同じである。しかも以前の広々とした木の香り漂う施設から3分の1程のスペースになった。そんな中でも少しでもつらいで頂けるようテーブル・椅子・ソファ等配置も工夫し、プライバシーの保護にも努めた。はじめは利用者さんもスタッフも使い勝手に戸惑いがあったが、1ヶ月経った今はすっかりなじんで、思いの外、皆さん喜んで下さっていると受け止めたい。少人数・小スペースならではの良い点も沢山発見できた。今後もゆっくり安心して安らげる場所を提供していきたい。<M・O>



摂食・嚥下障害 ～老化による身体の変化～ / 看護師コーナー

摂食・嚥下障害とは「一連の動作(先行期 準備期 口腔期 咽頭期 食道期)のいずれか、もしくは複数箇所が障害された状態 = 正常な嚥下が障害されること」。障害される原因には病気によることもあるが、ここでは老化による身体の変化からおこる摂食・嚥下障害を主に取り上げようと思う。

「老化だねえ～」と言ってしまえば簡単なことだが、この老化、身体にどんな変化をもたらしているのか、あげればきりがないので、今回は摂食・嚥下に影響を多く与えるものをあげる。塩味、苦味の閾値の上昇 歯牙欠損による咀嚼機能の低下 唾液腺の萎縮(まさに私や夫?) 咽頭反射の低下 安静時の喉頭の位置の低下 嚥下呼吸の協調性の低下 薬物使用による問題(睡眠剤・降圧剤・抗てんかん剤など) 気づかれない疾患の存在 活動性の低下・意欲の低下 姿勢の変化(円背・側湾)。

摂食・嚥下に影響するものだけでもこれだけあるのだ。つまりは、高齢者はいつ、何かのきっかけで嚥下障害に陥るかもしれない状態であるということが分かってもらえるだろうか。見た目とは関係なく、加齢で誰でもリスクは高くなるということを知ってもらいたい。その上で、私達、介護者はどんな関わりをしていけるのかを学んでいきたい。

私の夫は、なんと朝のパンが駄目。理由は「パンを飲み込むだけの唾液がない」と分析しているらしい。私は最近、やたらと歯茎に食べ物が残る。以前は毎食後の歯磨きをしなくても歯に何かはさまっているなんてことはなかった。今は歯磨きをしないと人と話すのが恥ずかしい。「きっと、唾液の分泌が減ったんだよ。」と夫に言われた。産後で歯が痩せたこともあるものの、こうやって「老化」を感じていくのだろう。<M・T>



モゴモゴのサイン / 愛宕の家

認知症であるKさんが口をモゴモゴさせていた。何か異物を口にしてしまったのでは? 即座に口の中を確認した。しかし見えているのは残っている2本の歯だけ。“おかしいな”と思っているとKさんが舌で奥歯を触り始めた。かなりグラグラ。モゴモゴしていたのはグラグラの歯が気になっていたせいだった。思っている事を言葉で伝える事が困難な利用者さんは多い。幸い歯の痛みはないようなので自然に抜けるのを待つことにした。数日後、Kさんは抜けた歯を大事そうに持ってきてくれた。長年活躍してくれた歯は残り1本になってしまったけれど、毎日鏡を見ながら歯磨きする姿はなんと微笑ましい。残った歯は1本。大事にしようね <A・H>



在宅支援の変化 / ナイス・ホーム

介護保険証の更新により要介護度が変化したYさん。24時間365日営業の小規模多機能型居宅介護事業所といえども、やはり、基本的サービス利用量は要介護度に合わせて見直しを図る。要介護2 要介護1へ。今回、状態が安定した等の判断により改善されたと考えれば、関わっている事業所としては良い結果となり嬉しい限り。しかしその反面、今までのサービス利用量が確保されていたから安定していたのかもしれないと悩む点は多々ある。今回の見直しで、当然のごとくサービス利用量は減ることになった。本人や家族にとって、見えない不安や負担は増してしまうことになるだろう。スタッフと一緒にいたら出来たことも一人だと出来なくなってしまうかもしれない。そんな時、急に変化させるのではなく、弾力的な対応として、「薬飲んだ? ちょっと顔見に来たよ!」と5分だけ訪問したり、「起きた? 朝ご飯食べた?」と電話をする等の関わりを積極的に持てるのも小規模多機能事業所の利点だと感じている。<Y・O>



アスレチック(?) がやってきた / ナイス・キッズ

先日、敷地内に車寄せが出来た。子ども達にとっては絶好の遊び場である。雨が降っていても屋根の下でドッジボールまで出来てしまう。しかも車寄せの壁は、これまたそそられるハシゴ仕様!“のぼっていいよ”の声を待たんとしてスルスルスルゥ～とのぼっていく。思わず私ものぼっちゃいました。どんな環境も遊びに繋がられる子ども達の好奇心ってステキですよええ～(^ - ^) <R・W>



編集後記

人が集まる場所では、大きな声、動きのあるものについて注目しがち。日々の生活でも同様で、日常と違う様子や出来事が気になる。それは勿論大切なこと。しかし、他愛もない会話の中で笑顔や喜びを見つけたり、当たり前毎日を普通に過ごしたりすることがどれだけ大切で尊いものか...無くしたり壊れかけた時に気がつくことが多い。小さい声、声にならない声に耳を傾け、特別でない日常を大切にしたいと思う。<A・M>